

CJV30 プリント&カット簡易マニュアル

右のイラストの周囲に沿ってFineCutでカットラインを作り、その線をCJV30シリーズでプリント&カットしてみましょう。



1. プリント&カットしたいイラストを作ります。

(1) イラストの周りにフレーム（カットライン）を作ります。

① イラストを選択した状態で、FineCutの[フレーム抽出]ボタンを押します



① [フレーム抽出] ボタン

② 周囲5mmの位置に、フレームを作成します。

(参照：FineCut取扱説明書の「フレーム（カットライン）を作成する」)

③ 「OK」ボタンを押します。



(2) 周囲5mmの位置にフレームができました。



(3) イラストの周りにトンボを作ります。

① Illustratorの” 長方形ツール” で、イラストを囲む長方形を作ります。

注) イラストに長方形の枠がかからないようにします



① 長方形

② FineCutの[トンボ作成]ボタンを押します。



② [トンボ作成] ボタン

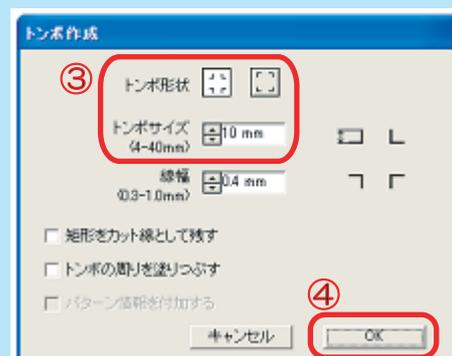
③ トンボのサイズや線幅を決めます。

外向きで、1辺10mmのトンボを作成します。

(参照：FineCut取扱説明書「トンボを作成する(CJV30シリーズ)」)

④ 「OK」ボタンを押します。

 トンボ間距離に対してトンボサイズが小さすぎると、CJV30でトンボが検出できない場合があります。
次ページの表
「トンボ間距離に対するトンボ1辺のサイズ」を
参照して下さい。



トンボ間距離に対するトンボ1辺のサイズ

トンボ間距離	~200	~500	~1000	~2000	2000~
トンボ1辺のサイズ	4~	8~	15~	25~	35~

(単位：mm)

- 💡 サイズ以外にも、トンボ作成には制限事項があります。適切にトンボを作成しないと、CJV30でトンボ検出ができない場合があります。CJV30取扱説明書の「トンボ付きデータ作成に関する注意事項」を参照して下さい。



(4) Illustratorでは以下のレイヤーが作成されます。

- ・トンボのレイヤー (FCトンボレイヤー)
- ・フレームのレイヤー (FCフレームレイヤー)
- ・元のイラストのレイヤー



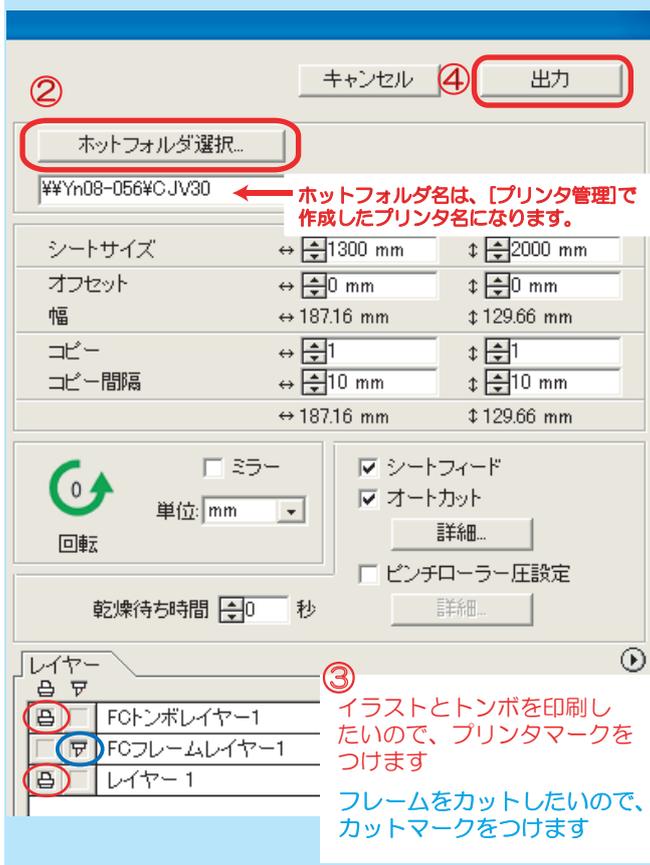
2. RasterLinkPro4 (またはPro5) にプリント&カットデータを送ります。

①FineCutの[RasterLinkへ出力]ボタンを押します。

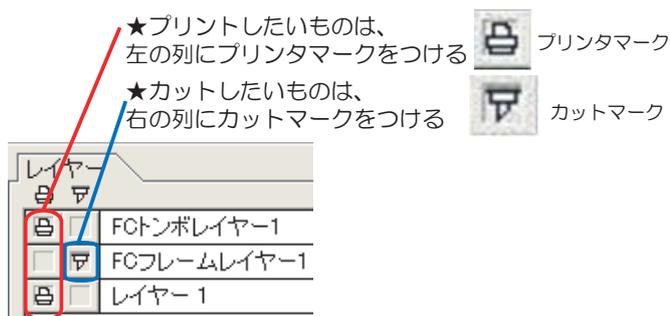


②[ホットフォルダ選択]ボタンを押し、CJV30のホットフォルダを選択します。
(参照：RasterLinkPro4/5リファレンスガイド プリンタ共通編)

※「ホットフォルダ」とは…
ネットワーク接続PCからホットフォルダにデータを入れる事により、RasterLinkPro4/5に、自動的にジョブが追加されます。

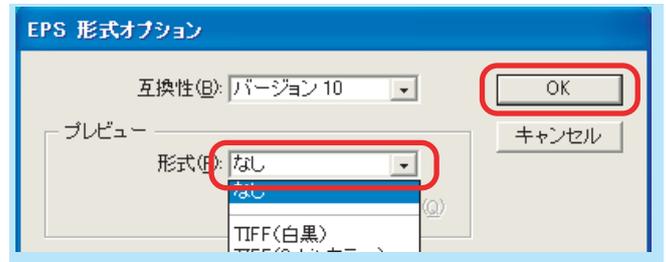


③プリントしたいレイヤーに「プリンタマーク」、
カットしたいレイヤーに「カットマーク」をつけます。
(参照：FineCut取扱説明書の「RaterLink出力画面」)



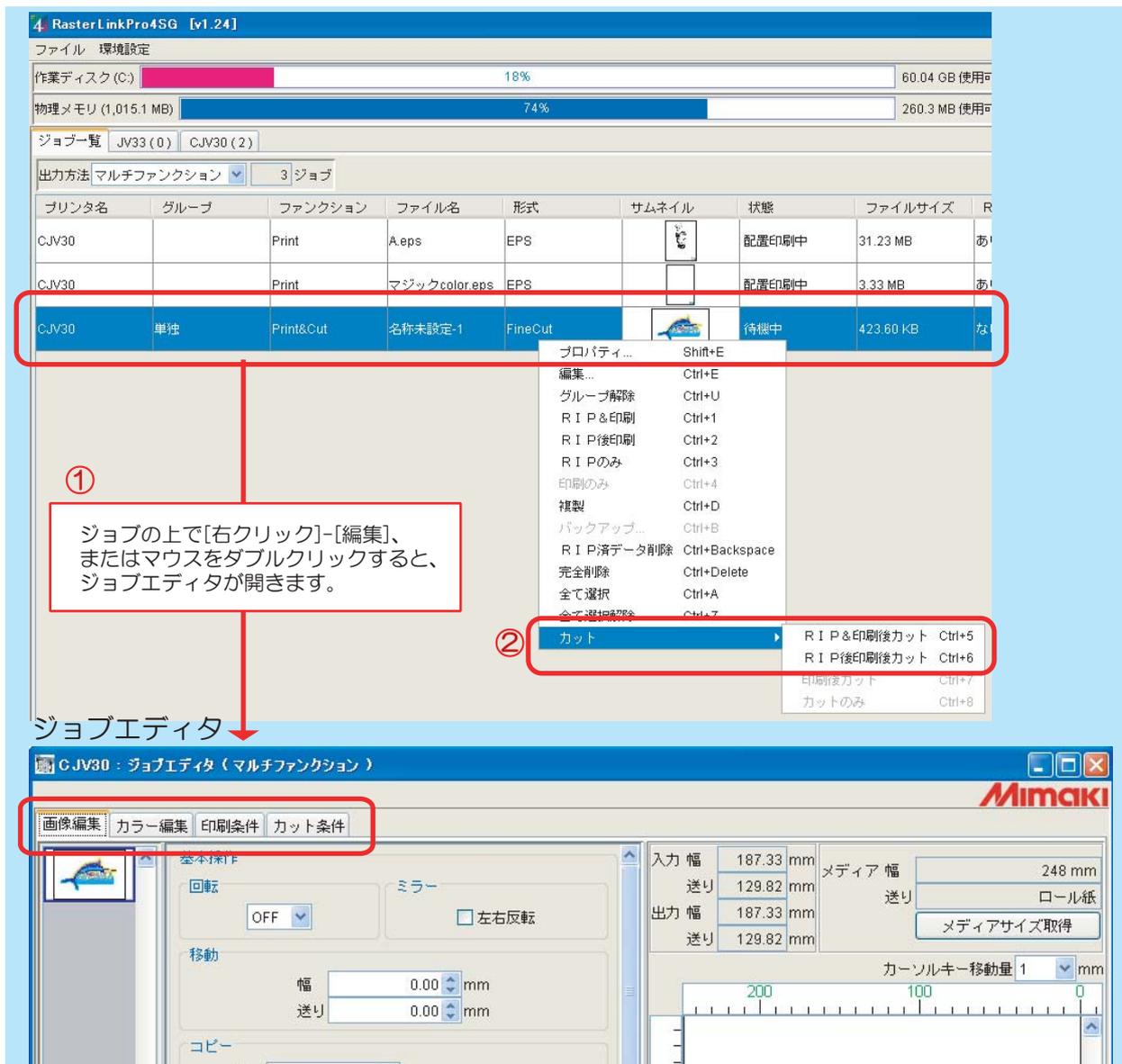
④[出力]ボタンを押します。

- ⑤ [EPS形式オプション]画面が表示されます。
ここでは、[プレビューの形式]を“なし”にして、[OK]を押します。



3. RasterLinkPro4 (またはPro5) で、プリント&カットを実行します。

- ① ジョブエディタを開き、それぞれ必要な設定をします。
(参照：RasterLinkPro4リファレンスガイド (JVシリーズ編)、RasterLinkPro5リファレンスガイド (CJV編))
- ② ジョブ一覧に戻り、プリント&カットするジョブの上で右クリックします。
[カット]-[RIP&印刷後カット]または[RIP後印刷後カット]を選びます。



お問い合わせはテクニカルコールセンターまでお願いします。

TEL : **0120 - 106 - 114**

また、CJV30シリーズの「よくあるお問い合わせ」は弊社ホームページもご覧下さい。

<http://www.mimaki.co.jp/>

(トップページ⇒ 製品サポート⇒ FAQ(よくあるお問い合わせ)⇒ CJV30シリーズ)